

F邸 ● 町家の間取りと動線を見直し快適に過ごせる家に

現地再生

設計 (株)アラキ工務店  
施工 (株)アラキ工務店



キッチン



2階洋室



和室から玄関を見る



和室 補強を兼ねた格子状の壁を増設(写真右側)



外観



玄関

|      |           |
|------|-----------|
| 事例種別 | 現地再生      |
| 築年数  | 105年      |
| 用途   | 専用住宅      |
| 構造規模 | 木造2階建     |
| 所在地  | 京都府京都市中京区 |
| 竣工   | 2022年2月   |

● 再生にあたって

築100年を超える町家の全面改修です。この町家を購入された建て主と打ち合わせを重ね、柱や梁などの構造と荒壁をできるだけ残し、新たに耐力壁を増設して耐震性を向上させ、そのうえで快適に生活できる建物にするという計画を進めることになりました。



再生前の外観

これらに加えて1階床面積が40㎡ほどの中で、間取りや機能面、動線等についての要望にも応えられるかがポイントとなりました。その他に在宅ワークスペース、大型のスーツケース数台の収納、大容量の下駄箱など、建物のサイズから相反する要望にも対応しました。

● 設計・施工の方針と工夫

構造については、柱の足元が腐っていたら根継ぎをし、新たに柱を設けて間口方向の壁を増やすことによって、耐震性を向上させました。

間取りや動線は、生活スペース(ダイニング、和室)と水回りの区切りを明確にしました。便所と脱衣室を両サイドに

配置、さらに縁側を設けることで、南北に風が通るようになりました。浴室は脱衣室から回り込むように配置し、生活動線と交差しないように配慮しています。キッチンには建物の中央に配置し、通路兼キッチン兼ダイニングとそれぞれを兼ねることによって、水回りとのバランスもうまくまとめることができました。収納や下駄箱、書斎などを家具工事とすることで、スペースを有効利用できるように配置しました。

また、建て主の要望でもあった、既存の壁や天井、ガラス窓や建具等を再利用することによって、より趣のある建物に仕上げる事ができたと思います。

◆ 建て主から

家を買うことを決めたときに、京都の文化を残したいと思い長く空き家になっていた町家を購入しました。残せるところはできるだけ残しながらも、水回り等を中心に住みやすくなるように現代的に改修していただきました。

全く色が異なる古い木材と新しい木材が不思議とうまく調和し、快適に過ごしています。大正ガラスが入った窓や古い建具なども生活の一部にあり、楽しんでいきます。

(登録事業者・荒木 勇)